

ま ち の ね

「まちなね」って？

地域を支える人たちの声や足音、
まちづくりの音をお届けする
活動レポートとして、
「こうべソーシャルマガジン
まちなね」は生まれました。



P.5~6
withコロナの時代に
工夫して地域活動を
支える人たち



まちなねの音が
聞こえてくる。

P.1~2
活動人めぐり!



P.3
with コロナ時代の
まちづくり協議会



P.4
まちづくり・
地域活動で
オンライン会議を
導入するには?



広場をみんなで育てよう

よりよいわがまちのために奮闘する「活動人(かつどうびと)」にインタビューする「活動人めぐり!」。今回は、コロナ禍で注目されつつある、広場を育てる活動人をご紹介します。

兵庫駅南公園

JR兵庫駅の南西にある兵庫駅南公園は、これまで利用者があまり多くありませんでしたが、この場所を地域の資源としてとらえ、子どもが主役になれる舞台にしようと取り組む手取義宏さんにお話を伺いました。



普段は入れない新運河での水遊びにおおはしゃぎ!



脅かす側も本気の公園きもだめし



広い公園で親子いっしょに作る秘密基地

子どもフェスタを始めたきっかけを教えてください。

兵庫区出身・在住の私は、平成28年の「兵庫区まちづくり活動プラットフォーム事業」でメンバーとつながり、兵庫駅南公園を舞台に子どもが主役になれるイベントをつくろうと動きはじめました。活動に多くの賛同をいただき、水場の少ない兵庫区では貴重な新運河のある公園で、子どもたちが思いきり水遊びできるイベントを実現させることができました。

現在の活動について教えてください。

昨年、兵庫図書館で実施したおばけ屋敷が大好評だったので、コロナ禍でも何かできないかと取り組んだ結果、8月に公園でのきもだめしを開催することができました。これからも、子どもたちの日常の遊びと経験を豊かにすることを目指して活動を続けていきたいです。

活動のどのような点に力を入れていますか?

後継者づくりの悩みに対し、子育て世代の力を上手く引き出し、地域と子育ての課題に同時に取り組んでいきたいと思っています。そのために、大人から子どもに与えるのではなく一緒につくりあげていくこと、舞台の主役を子どもたちにすること、そしてそれを大人たちのネットワークで実現していくことを大切にしています。わざわざ面倒なやり方になることもありますが、自分の頭で考えてまわりの人と一緒に何かをつくりあげる経験をし、自分も何かしてあげる側に立つことが、次の兵庫区の担い手を育てていくことにつながると思います。

今後の活動についての想い

今年度は兵庫区子どもプロジェクト事業を受託し、活動として新しいステージへ進みます。関わるすべての子どもと大人が互いに学び合い、対話しながら、とにかく楽しんで取り組んでいきたいですね。

兵庫駅南公園子どもフェスタ
Facebookページ



こちらから

兵庫駅南公園を舞台に子どもが主役になれるイベントを

代表 手取義宏さん
兵庫駅南公園子どもフェスタ実行委員会

塩屋市営住宅跡地

垂水区塩屋町9丁目に、数十年の間フェンスで閉ざされていた1ヘクタールもの広大な市営住宅跡地が存在します。ここをみんなの居場所にしようと取り組む澤井まりさんにお話を伺いました。



活動を知ってもらおうと、ユニークな看板を作りました



小さな広場はとても景色の良い場所です



自分たちの手でいろいろな植物を植えています

活動を始めたきっかけを教えてください。

市営住宅跡地はかなり広い土地です。開発できず市でも使い道に悩んでいたところ、まわりまわって市職員から私に相談がきました。塩屋は坂のまちで、大きな広場がほとんどありませんが、ここならゴロゴロできるみんなの居場所になると思い、昨年から活動を始めました。

具体的にはどのようなことに取り組んでいますか?

地域で使っていくにも大きく育った草で地形が全く見えなかったため、まずは月1回の草刈りから始めました。広く呼びかけながらみんなで草を刈り、地元の庭師さんにも頼りながら、なんとかこの1年で小さな広場をつくりあげることができました。今年の5月には、多くの人にこの場を知って楽しんでもらおうとピクニックを開催する予定でした。しかし、新型コロナウィルスの影響で開催できなくなってしまったため、座談会という形でみんなのアイデアを募ることにしました。これからはみんなのアイデアを一つずつ試してみたいですね。

活動のどのような点に力を入れていますか?

塩屋に似合う自然と調和した場になるよう、既存の方法に頼らず、何でも試してみようと手入れを進めています。また、市営住宅跡地をみんなの居場所にするためには、考える過程から幅広い方々に関わってもらうことが大切だと考えているので、今後もさまざまな活動を続けていきます。

今後の活動についての想い

とにかく塩屋にとって良いものになるようにと願っています。まちを好きな人が多い塩屋で、「自分たちでまちの暮らしを作っていく」ということを試しているので、ぜひみなさん遊びに来てくださいね!

活動日については、塩屋まちづくり推進会WEBサイトからお問い合わせください。



こちらから

市営住宅跡地でみんなの居場所づくりを

塩屋まちづくり推進会
澤井まりさん



WEBも活動の場に

これまで通りの活動が難しい今、WEBを活用した地域活動に取り組んでいる協議会を紹介します。

東灘区 深江地区まちづくり協議会

オンラインで新しいイベントの形を

今年度に企画していた2つのイベント「大敬老会」と「ふかえ～な祭り」を開催するかどうか話し合う必要があり、メンバーからの提案で4月にオンライン会議を行いました。結果として2つのイベントは中止することになったのですが、オンライン会議を経験したことで新しい発想が生まれ、これらのイベントもWEB開催にできないかという意見が出てきました。「大敬老会」は新聞のような紙媒

体も併用して年配の方の趣味の発表の場として、「ふかえ～な祭り」は子どもたちの部活動の成果や生活シーンのひとコマを紹介する場として、それぞれ動画を作成し、WEBサイトやYouTubeで公開することを考えています。今後も形にとらわれず、時々の状況に合った活動を展開していきたいですね。



神戸深江つながり手帖
<https://fukae.info>
深江地区まちづくり協議会WEBサイト▶



深江地区まちづくり協議会
会長 田中 康さん

東灘区 本山北町まちづくり協議会

WEBでの広報をより充実させる試み

本山北町まちづくり協議会ができた当初は、広報のツールがニュースレターだけでしたが幅広い層により素早く発信するため、後にブログを開設しました。現在ではFacebook、Instagram、Twitterでも情報を発信しています。緊急事態宣言の時期は、ブログを充実させようと多くの記事を投稿しました。記事の内容は、まちの話題や協議会活動に関することだけにしていました。テレビや



新聞が新型コロナウイルスの話題ばかりだったので、ブログを見ている間はコロナのことを考えずに済むようにという気持ちからです。今後は、これからのまちを担う若い世代や学生にも協議会活動を知ってもらうため、WEBサイトを中心として、各種SNSの特性に合った効果的な広報の方法を考えていきます。

本山北町まちづくり協議会
広報担当 武田 厚夫さん

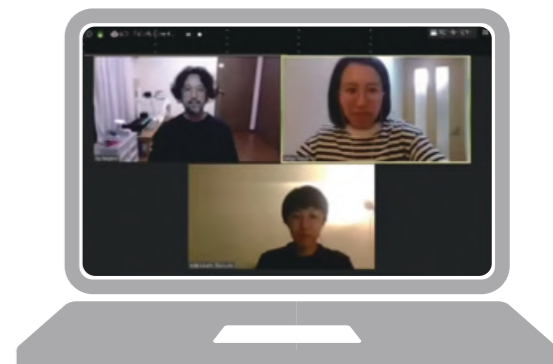


オンライン情報交換会レポート

まちづくり・地域活動でオンライン会議を導入するには？

令和2年8月2日実施

「オンライン会議って、なんだか難しそう」と考えていませんか？ そのような地域団体向けに、オンライン会議ツール「Zoom(ズーム)」の使い方の説明や、Zoomの体験を兼ねた情報交換会を行いました。「地域の取り組みオンライン情報交換会」と称した当日の内容の一部をご紹介します。



Zoom(ズーム)とは、

インターネットを使って、離れた場所にいる人と映像・音声のやり取りや、資料の共有ができるツールです。パソコン、スマートフォン、タブレット端末があれば、一部機能を除き、無料で利用できます。

Zoom(無料版)でできること

 1対1での対話・面談 時間無制限	 複数人での会議 40分まで	 セミナーや勉強会 100人まで可
--------------------------------	-----------------------------	--------------------------------

地域活動での使い方

委員会などでの打ち合わせ 役員を中心メンバーや各委員会、サークルといった10人程度のグループなど、話しやすい人数規模での会議に最適です。	資料を見せながら話し合い 話しながら資料を送る、資料を見せながら複数人で話し合うなど、電話では難しい話し合いに便利です。	遠くにいる人も会議に参加 現場にいる人だけでなく、当日現場に来られない人も参加が可能です。
--	--	---

うまく使うためのコツ

静かな環境 騒音のない部屋など、話ができる静かな環境を整えましょう。	パソコンを使用 スマートフォンではなくパソコンを利用すると、相手の表情がよく見えます。	カメラはON 表情が見えるようにカメラをONにしておくとお互いに話しやすいです。	テストをする 早めに接続してマイクやスピーカーのテストを行いましょう。
--	---	--	---

参加した11団体からは、「もう少しZoomに慣れたい。団体内部のメンバーにもZoomを体験してほしい」「いまの活動をオンラインで開催できるか相談したい」「今後は主催者としてオンライン会議の開き方も習得したい」といった感想をいただきました。

※本ページに記載されているZoomに関する情報は令和2年7月時点のものです。

「地域の取り組みオンライン情報交換会」当日の様子を動画でご覧いただけます。動画閲覧をご希望の方は下記URLかQRコードから申し込みください。申し込みいただいた方に動画の閲覧方法をご連絡します。

- 【動画の内容】
- ・Zoomの操作方法説明(初心者編から主催者編まで全5編)
 - ・ゲスト講演「コロナ禍での地域活動」の事例紹介

<https://bit.ly/kobe2020online>
申し込みはこちら▶



※当日参加者による情報交換の様子は動画を公開しておりませんのでご了承ください。※動画の公開期間は令和3年3月までの予定です。

withコロナの時代に工夫して地域活動を支える人たち

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の活動も大きく制限されています。そのようななか、困っている人を支援したいと工夫をしながら活動を継続する人や、これを一つの機会ととらえて新たな活動に取り組む人たちがいます。そのような取り組み事例を紹介します。

事例①：オンラインでの学習支援

プライバシーに配慮した取り組み

令和2年春、子どもたちは小学校の休校措置により、家庭学習を行う必要がありました。そこで家庭学習の大変さ、長期休校によるストレス、保護者の負担増加といった様々な課題を解決しようと、オンラインで学習支援や生活支援を行う「こどもべやオンライン」を開始しました。しかしオンラインでの支援では、映像や音声から意図せずに家庭の状況を知ってしまう可能性があります。そこで、保護者に事前の説明を行うだけでなく「スタッフ向け運営ガイドライン」などを整備し、プライバシーに配慮しながら家庭学習の支援に取り組んでいます。



認定特定非営利活動法人 まなびと

「人との関わりが少ない人たちに、学ぶ気持ちが育つ居場所を届ける」という理念を土台として、地域の学び場づくりに取り組んでいます。



代表 中山 迅一さん

事例②：在宅ワークでのスタッフの連携を強化

「記録・保管・共有」のデジタル化

フリースクールでの生徒の活動状況や職員の日報は、これまでノートなどで記録し、それらを読み返してスタッフ間でコミュニケーションを図っていました。しかし、今では新型コロナウイルス感染症対策として在宅ワークを始めたことをきっかけに、「記録・保管・共有」のデジタル化を進めています。インターネット上で、日報、出勤簿、電話受付の記録をどこからでも入力、確認できるようにしたところ、情報共有がスムーズになりました。また、生徒の出席状況をデジタルで管理することで、フリースクールの重要性を議論するデータとしても使っていけると考えています。

特定非営利活動法人 ふぉーらいふ

「フリースクールForLife」の運営を中心に、不登校や発達障害などの子どもたちと、その親を支援する団体です。



写真左 副理事長 矢野 良晃さん

事例③：オンラインでの交流の場づくり

多様な世代が全国から交流

多世代コミュニティの交流の場「はっぴーの家ろっけん」では、新型コロナウイルス感染症の影響を前向きに捉え、全国の人とオンラインで交流できる場をつくりました。不登校の子どもや海外にルーツを持つ子ども、高齢者が相互に学び合う場「おせっかいスタディ」、はっぴーの家ろっけんの日常に参加して交流するオンラインサロン、サロンメンバーに「おせっかい」する「おせっかいラボ」。これらの活動をオンライン上ですすめることで、「みなとまち」神戸の再創造を目指しています。

株式会社Happy

多世代型介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」の運営など行っています。子どもから高齢者まで週に200名以上の様々な世代が集まる交流の場となっています。



代表取締役 首藤 義敬さん

事例④：神戸の食文化を守る飲食店情報サイト

配達やテイクアウトの情報発信で飲食店を応援

新型コロナウイルス感染症の影響で売り上げが減ってしまった地域の飲食店は、生き残りをかけて、配達やテイクアウト、先払いチケットの販売などに取り組んでいます。しかし、どのお店がどのようなサービスを実施しているのかわかりづらいため、そういった情報を無料で掲載するWEBサイト「神戸おいしいマルシェ」を開設しました。まちの人たちが、食べる豊かさを飲食店から受け取り、マルシェを楽しむように過ごしてほしい、そして一丸となってみんなで神戸の食文化を守っていこうと活動しています。

神戸おいしいマルシェ実行委員会

神戸のクリエイター有志が集まり、どのお店が配達やテイクアウトを行っているのかを掲載した情報サイト「神戸おいしいマルシェ」を運営しています。

<https://kobe-oishii.com>

神戸おいしいマルシェ 検索



神戸おいしいマルシェ実行委員会メンバー

事例⑤：やりがいを感じられる多様な働き方

得意分野を活かした新しい商品づくり

コロナ禍により、障がいを持つ人が働く就労継続支援B型事業所への軽作業の依頼が減少傾向にあります。仕事を増やす必要がある状況で、これを機会としてとらえ、ペットの写真からオリジナルのニット商品をオーダーメイドで製作する新たなサービス「and.e(アンデ)」を始めます。絵を描くことが得意な障がい者が超短時間雇用で写真を図案に変換する作業を行い、商品の縫製などは就労継続支援B型事業所で行うことで、「等しく働きがいの提供に繋がる仕組み」を目指しています。

株式会社インプルーヴ

「必要な人に、必要なだけの量を、必要な時に」提供できて、経済合理性が保たれる小規模事業者連携型の製造業ビジネスモデルを目指すアパレル企画会社です。



and.e(アンデ)担当 岡本 洋子さん

上記2つの取り組みは神戸ソーシャルブリッジの「プロボノ経験者」の協力で実現しました!

神戸ソーシャルブリッジ

お問い合わせ
神戸市中央区雲井通5-3-1 サンパル2F
開館時間 火曜～日曜 14:00～20:30 (月、祝日、年末年始は閉館)

kobe@servicegrant.or.jp ☎ 078-241-9797

『神戸ソーシャルブリッジ』とはNPOや地域団体等と社会貢献活動を希望する人材(プロボノ)がつながり、地域の課題解決に協働して取り組むプロジェクトです。参加者のスキルや専門知識を活かして団体を支援する新しいボランティアの形です。詳しくはこちら▶



神戸ソーシャルブリッジ 検索



上記3つの団体・企業は、神戸市ソーシャルビジネス推進助成(準備・創業期)の採択団体・採択企業です。

ソーシャルビジネスの推進

神戸市では、社会課題の解決に向けて自立的・持続的に提供されている事業をソーシャルビジネスと位置付け、すでに実施している人やこれから始めようとしている人を応援しています。

詳しくはこちら▶



神戸ソーシャルビジネス 検索

ご近所SNS掲示板「マチマチ」のご紹介

登録は
QRコードから

「マチマチ」は国内で月間数百万人が利用する日本最大の地域限定型SNSです。半径1.5～10kmの範囲で「ご近所」を設定することで、実際にこの地域に住んでいる方々の間でのみ投稿・閲覧できるサービスです。

利用無料

マチマチ

検索



こんなことができます！

回覧版や団体の
メンバーのやりとりを
電子化する

活動内容の
発信

地域団体の
イベント情報の
告知

※神戸市は、SNS（会員制交流サイト）を活用した地域コミュニティの活性化に向けて、「マチマチ」の運営元である株式会社マチマチと協定を締結しています。

登録方法

「マチマチ」(<https://machimachi.com/>)を検索

メールアドレス・facebookアカウントのどちらかで登録

必要事項を入力

「地域設定」の画面で「居住地（現在、お住まいの地域）」
「勤務地」「出身地」などを追加すると、その地域の情報が閲覧できます。



自治会・管理組合の方がマチマチを利用するメリット

電子回覧板の活用

瞬時に情報を配信できます。行政からののお知らせも「マチマチ」に掲載すれば、会員に届きます。

若年世代とのつながりができる

簡易版ホームページを作成でき、忙しい世帯もスマホで町内会の情報をチェックできます。

イベント・活動への参加促進

イベントや地域活動の情報が近隣の住民に届き、参加者が増加するかもしれません。

自治会運営のご相談は コミュニティ相談センターへ



Facebook
はじめました！
最新情報を
チェック！



「総会、会計事務のやり方が分からない」、「役員の担い手がいない」など、お悩みのことはありませんか？そのような地域コミュニティの運営や活動に関するさまざまなご相談に応じています。また、活動のコツやヒントを紹介する講座も開催します。

アクセス 神戸市長田区二葉町7-1-18ふたば学舎1階
新長田（JR、地下鉄西神・山手線、海岸線）から南へ徒歩約13分
駒ヶ林駅（地下鉄海岸線）から徒歩約6分

相談時間 10:00～17:00（休館日：日・月曜日および祝日、他年末年始など）

電話番号 078-643-2900 E-mail com-center@cskobe.com

お問い合わせ・発行 神戸市企画調整局つなぐラボ TEL:078-322-5170(平日8:45～17:30)